

第5回全国教職員テニス(広島)大会レポート

全教職員テニス連盟事務局長 高芝純明

2003年高知県で始まった全国教職員テニス大会も今年で第5回を迎え、8月11・12日に広島県尾道市の「びんご運動公園」で開催された。今年は団体が男子8チーム、女子2チーム、個人男子16ペア、女子10ペア、延べ参加数121人と過去最高になった。参加県も兵庫・大阪・広島・山口・愛媛・高知・佐賀・長崎と西日本一円に広がっている。

以下今年の大会のようすをレポートする。(文中敬称略)

大会初日は個人戦は、男子4ペア、女子は3ペアによる予選リーグを行い、その後順位別トーナメントを実施。

男子は3連覇を目指す荒井(兵庫)は北村と組み、順調に予選Aブロック1位。Bブロックからは悲願の初優勝を目指す前田・上河(兵庫)、Cブロックからはロブのスペシャリスト石元・山中(高知)が優勝候補の安居院・松尾(長崎)を破り1位、Dブロックからは初参加で最年少(二人合わせて50才)の工藤・林(山口)が1位となる。その後の1位グループトーナメント決勝では林・工藤と荒井・北村の対戦となり、林・工藤ペアが6-3で勝ち初優勝。荒井・北村ペアは、準決勝の石元・山中戦での消耗がひびき惜しくも準優勝。ワンセット・ノーアドとはいえ、炎天下の中5試合目という厳しい条件で、最後は若さがものをいったか。

女子個人戦、Aブロック田村・池畠(高知)、Bブロック端本・池田(広島)、Cブロック(広島)が1位トーナメントに進む。1位グループトーナメントでは、広島県対決をタイブレークで制した藤井・岩崎がその勢いで決勝戦も田村・池畠ペアに圧勝、嬉しい初優勝。田村は昨年のマスターズ広島大会ダブルスで全国3位に入り優勝が期待されたが、決勝戦ではミスが目立った。

大会二日目はいよいよ団体戦。女子は広島と高知の2チームでの対戦となり地力で勝る広島県が3-2で勝ち3回目の優勝。男子はこれまでで最多の8チームの参加となり、まず4チームでの予選リーグを実施。セリーグは層の厚い兵庫県高体連Aが1位。2位争いは、高知教員との接戦を際どく逆転したチーム山口が2位となる。パリーグでは新たな強力メンバーを要した大阪が1位、広島が2位となる。

1~2位決定戦では、兵庫高体連Aとチーム山口が勝ち上がったため、リーグ戦で勝っている兵庫高体連Aの2回目の優勝が決定する。以下3位大阪、4位広島、5位高知、6位佐賀、7位愛媛離島チーム、8位兵庫高体連Bとなった。この日も晴れ渡った青空からは容赦なく紫外線が降り注ぎ、選手の体力を奪っていた(ただし、女子は屋根付コート)。また、テニスコートから本部まで、数十段の階段が待ちうけており、オーダー提出と結果報告に登る足取りはしだいに重くなっていった。ともあれ、怪我人もなく無事終了。閉会式では高尾大会実行委員長が「来年は佐賀で会いましょう」と締めくくった。大会が終わり、「今年もこれで夏が終わった。また、1年間この大会を目指して頑張ろう」と言う選手の声を聞くと、本当にこの大会を作った良かったと思う。その後、恒例の集合写真を撮り、今年のお互いの検討と来年の佐賀大会(H20年8月9~10日予定)での再会を約束し、尾道を後にした。